

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

問題一では、昨年同様、近年出版された文章が出題された。本文は、「普遍的な人権思想」が「書簡体小説」や「拷問反対運動」を通して形成されていったということを論じたものであった。設問の方は25字、30字、50字各1題と、昨年度よりも解答字数が若干減り、字数条件が厳しい点は例年どおりである。ただ問い四は昨年度とは異なり、「文章全体をふまえて」というような条件のないものであった。

問題三は、例年通りの200字要約問題であったが、出版年の古い文章ではなく、近年の文章であった。箇条書きのような部分や、同様の内容が繰り返されている部分などを見極め、適切に対処できないと、字数条件の範囲に収めるのが難しくなる出題だったと考えられる。

全体としては昨年度と同程度の難易度と言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	問題一	問題三
出典 (作者)	筒井清輝『人権と国家—理念の力と国際政治の現実』「第1章 普遍的な人権のルーツ」(岩波書店 2022年刊)	眞嶋俊造『正しい戦争はあるのか? 戦争倫理学入門』「第4章 正戦論の射程」(大隅書店 現:さいはて社 2016年刊)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試では稀な筆者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2950字 昨年より約450字増。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2200字。昨年より約200字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題一	社会論	問い一	記述	やや難	漢字の書き取り。A「醸成」、D「尋問」がやや難しい。傍線部に関する内容説明問題。どの立場から解答を書くのか迷うが、第一～第三段落に着目し、「ある共同体」に所属し、その「共同体」の経験や規範を共有する人間のあり方を書く。 傍線部の理由説明問題。第四・第五段落に書かれている「書簡体小説」の特徴と、それが読者にもたらすものについてまとめる。 傍線部の理由説明問題。傍線部直前の「人権思想の内在的論理」が「権利主体の範囲」を拡大していく、という記述を踏まえ、「人間であることがこの原理 (=『人権』) の適用の基準」(最終段落) だということを中心にして、傍線部につながるように解答をまとめる。
		問い二	記述	やや難	
		問い三	記述	標準	
		問い四	記述	標準	
問題三	倫理に関する文章		記述	標準	要約問題。「赦し」が被害者と加害者との関係において、両者に何をもたらすのかを述べると同時に、「赦し」は社会の中でどのように位置づけられるかを述べた文章である。こうした文章の大枠を踏まえて解答を書けよ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題一については、多様な文体の文章・多様なジャンルの文章に取り組み、制限字数内で簡潔に解答をまとめる記述練習を積むこと。漢字や語句の知識の習得も忘らないようにしたい。

問題三については、評論はもちろん、エッセイや古い文体の文章も含め、やはり様々なジャンル・文体の文章を読み、200字の要約練習を行っていくこと。

# 国語 (文語文)

一橋大学 (前期) 3/3

## <総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

今年度は昨年度と同様に近代文語文が出題された。設問数は昨年度と同様に三問であった。昨年度は、問い一が語の意味の問題（枝問形式で四題）であったが、今年度は、現代語訳の問題になった。昨年度は、問い二の内容説明の問題に30字、問い三の内容説明の問題に60字の字数制限が設けられていたが、今年度は、問い二の理由説明の問題に30字、問い三の内容説明の問題に50字の字数制限がそれぞれ設けられていた。問い二の字数制限には増減はないが、問い三の字数制限は10字少なくなった。

## <本文分析>

大問番号	問題二
出典 (作者)	森田思軒「翻訳の心得」
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	1028字。 約680字減少（原文を大幅に省略して出題された）。
難易 前年比較	やや易。

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
問題二	論説	問い一	記述	標準	現代語訳。「其」の内容を正しく捉え、要領よく表現する。「百端」「枚挙」「且らく」の意味に注意する。
		問い二	記述	標準	理由説明。30字以内。本文3行目「最も広く行はるる弊は」から傍線二までの主旨を正しく捉え、制限字数内で簡潔にまとめる。
		問い三	記述	標準	内容説明。50字以内。「大胆者」と「小心者」との対比に留意しつつ、特に第二段落と第三段落の内容に注目して簡潔にまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

問題二は、現古融合文、現漢融合文、近代文語文、近世の古文などから出題される可能性が高いため、古文、漢文の標準的な学習を怠らないこと。  
必要な要素を制限字数内に要領よくまとめることが要求されるので、答案作成の練習を怠らないこと。